



日本うつ病学会

第21回日本うつ病学会総会

# ランチョンセミナー12

日時

2024年7月13日(土)  
12:20~13:20

会場

第6会場  
(大阪国際交流センター 3F 会議室1・2)  
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6

開催形式

現地開催

## 新しいガイドラインから考える うつ病の維持療法 ～抗うつ薬の実践的な続け方とやめ方～

座長

慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室 教授

内田 裕之 先生

演者

愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学 准教授

伊賀 淳一 先生

参加方法：共催セミナーはいずれも整理券はございません。直接会場にお越しください。

共催：第21回日本うつ病学会総会 / Meiji Seika ファルマ株式会社

# 新しいガイドラインから考える うつ病の維持療法 ～抗うつ薬の実践的な続け方とやめ方～

愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学 准教授 伊賀 淳一 先生

---

今学会において新しいうつ病治療ガイドラインのドラフトが発表された。維持療法はこれまでになかった新しいセクションとして取り上げられ、迷うことが多かった維持療法の臨床疑問に一定の回答を示す内容になっている。うつ病は治療の終結が可能な疾患であるが、再発が多い疾患であることから維持療法は重要である。抑うつエピソードから寛解に至る急性期治療、寛解から半年ほど治療を継続して回復に至る持続療法、回復してからも再発予防のために治療を継続する維持療法、治療を終結する終了期の段階を経るが、それぞれの段階で患者の回復とQOL改善を図るための工夫があり、世界各国のガイドラインでも維持療法の重要性を指摘している。つまり維持治療は続け方とやめ方の両面が重要である。維持療法の有無や期間に絶対の正解はないが、維持療法のメリット、デメリットについて患者や家族と十分に相談して納得して治療を受けてもらうこと(Shared Decision Making)が重要と考えられる。本講演では新しいガイドラインから考える維持療法の重要性を解説するとともに、抗うつ薬の実践的な続け方とやめ方を紹介する予定である。